商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年6月調査結果-

平成22年7月12日

---------- 調査要領 ----------

〇調査期間　2010 年 6 月 16 日～22 日
〇調査対象　200社
〇回答企業　131社
〇回収率　　65.5%

※ＤＩ値（景気判断指数）について
ＤＩ値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合わす回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）

業況・採算：（好転）－（悪化）/　売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より6.4ポイント悪化の▲40.5。
　平成7年4月調査開始以来183ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。
　業種別では、サービス業が回復となった。
※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲38.2と回復となっているが、依然として厳しい状況である。
　業種別でみると、製造業・卸売業の2業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通 7～9月
業況	▲60.8	▲57.4	▲58.5	▲37.8	▲34.1	▲40.5	▲38.2
売上	▲47.9	▲41.8	▲30.5	▲20.0	▲22.5	▲23.7	▲31.3
採算	▲46.3	▲40.2	▲33.1	▲29.6	▲21.7	▲29.0	▲31.3
仕入単価	▲13.3	▲22.1	▲17.8	▲34.1	▲27.9	▲26.0	▲29.8
従業員	▲17.5	▲21.3	▲12.7	▲7.4	▲9.3	▲8.4	▲8.4
資金繰り	▲25.0	▲30.6	▲26.3	▲16.4	▲12.4	▲13.0	▲19.8

旭川市産業別業況ＤＩ値（前年同月比）の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
建設	▲64.0	▲65.4	▲68.0	▲50.0	▲42.9	▲51.7	▲44.9
製造	▲50.0	▲57.7	▲58.3	▲22.6	▲19.2	▲26.9	▲30.8
卸売	▲59.3	▲50.0	▲40.0	▲28.1	▲17.3	▲39.3	▲42.9
小売	▲66.7	▲52.6	▲50.0	▲34.8	▲33.4	▲37.5	▲29.2
サービス	▲65.2	▲60.9	▲77.3	▲61.9	▲63.6	▲45.9	▲41.6

今月のトピックス（業界の声）

建設業	・建主の慎重かつ業者の比較により、契約までの時間が以前より要する。独自性の発揮が小さい中小建設業者としては、条件競争となり収益は今後も厳しい。 ・民主党政権において、公共工事の大幅削減を余儀なくされている。業界全体として受注が少なく、現場が動いていない状況が続いている。業況は悪化している。 ・仕事はあるが、なかなか採算がとれず苦労している。 ・公共事業が少し動き出しているが、元請からの値下げ圧力が強い。量販店の安売り合戦に生産者が泣かされているのと同じパターンだ。 ・先月同様に公共事業の発注遅れが続いているが、参議員選後に期待したい。
製造業	・仕事は薄い状況。鋼材価格は落ち着きの兆し。 ・受注状況は最悪だった昨年に比べると、2 月以降やや持ち直してきているが、6 月に入りやや低迷。展示会を控え、集客に注力している。昨年並みの見通し。 ・鉄に関連する仕事についてはどこも低調である。平成に入って一番の低調ではないか。菅内閣に変わったが、景気対策という点では期待できない。 ・前年同月では売上など不変ではあるが、新規を取った上での不変なので、既存のクライアントからの仕事は減少している。
卸売業	・宮崎県の口蹄疫の影響で、品評会及び諸々のイベントに、中止ないしは規制や縮小などの悪影響が出ている。特に道東方面は中止が相次いでいる。そのため、予定していた売上のカバーで苦労している。売上的にはなんとか昨年並みを維持しているが、先行に関しては不安がある。 ・国内外における不況や天候などの総体的事由により、仕入れ・販売に影響がでている。先行きの不安を感じる。 ・量販店での価格競争が激しいが消費需要は伸びない。特に米や魚を中心に売上が減少しており、厳しい状況が続いている。 ・前年よりは売上・利益ともに上乗せとなっているが、依然として力強さには程遠い状況。天候不順などの些細な影響で、落ち込むことが予想されるため先行きに注視。
小売業	・6 月に入り少しずつではあるが、需要が増えてきている。ただ業況は例年通りといえる。 ・気温が一気に上がり、先月まで動きの鈍かったポロやショートパンツなどの盛夏物が動き出してきた。しかし集客自体は多くなく、売上の取れる日と取れない日がはっきり分かれ、売上の不安定な日が多い状況となっている。 ・案件が出ても過当競争が厳しく、利益が見込めない状況が続いている。 ・これまでの仕入価格上昇傾向が、一段落し久々に価格が安定している。天候にも恵まれ、洗車や整備が好調である。今後の高速道無償化により、需要増を期待している。 ・春先に起きた野菜不足は解消されては来ているが、価格は強含みとなっている。更に肉類の仕入れ価格の上昇もあり、燃料代などを含めて利益率の低下へ。更に大量販売により、販売価格のディスカウントも響いている。
サービス業	・天候に恵まれ、売上は横ばいから微増傾向。高速道無料化の影響を懸念している。 ・景気底打ち宣言、菅政権に対する期待の声もあるが、足元の景気は楽観視できない状況にある。今月は増収だが来月以降の先が読めない。明るい材料は 7 月からの中国チャーター便の運行。 ・業界的に動き出す時期だが、売上に関しては前年並みとなっている。酪農などの夏場に向けた各地のイベントが、口蹄疫の関係で中止になっているのが不安材料。 ・今月は見積もりが多く期待していた月だったが、案件が決まらず苦しい時期となった。しかし、見積もりはあるので前向きに考えたい。 ・前年同月に比べマーケットは縮小し、昨年よりも宿泊需要が下がっているため、販売価格を下げている。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	仕入単価 DI4.3 ポイント、従業員 DI14.7 ポイント、資金 DI0.7 ポイント回復。売上 DI2.4 ポイント、採算 DI12.7 ポイント悪化、総じて業況 DI も 8.8 ポイント悪化となった。業種別では建築業横ばい。総合工事 13 ポイント、設備その他 11 ポイント悪化となった。建主の慎重と業者の比較により契約迄の時間が以前より要する。独自性の発揮が小さい中小建設業者としては、条件競争となり収益は今後も厳しいとの声も寄せられている。
製造業	採算 DI7.7 ポイント、仕入単価 DI11.5 ポイント、従業員 DI3.9 ポイント、資金 DI3.9 ポイント回復。売上 DI7.7 ポイント悪化、総じて業況 DI も 7.7 ポイント悪化となった。業種別では印刷出版 7 ポイント回復。家具木材横ばい。食料品 8 ポイント、金属窯業他 22 ポイント悪化となった。前年同月に比べ売上などが不変ではあるが、新規を取った上での不変なので、既存のクライアントからの仕事は減少しているとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI3.8 ポイント、採算 DI14.4 ポイント、仕入単価 DI4.3 ポイント、従業員 DI11.0 ポイント、資金 DI3.8 ポイント悪化、総じて業況 DI も 22.0 ポイント悪化となった。業種別では、繊維 17 ポイント、食料品 33 ポイント、機械鋼材 43 ポイント、その他 4 ポイント悪化となった。量販店での価格競争が激しいが消費需要は伸びず、特に米や魚を中心に売上が減少しており、厳しい状況が続いているとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI4.2 ポイント、採算 DI4.2 ポイント、資金 DI12.5 ポイント回復。仕入単価横ばい。従業員 DI4.1 ポイント悪化、総じて業況 DI も 4.1 ポイント悪化となった。業種別では、家電時計他 17 ポイント回復。自動車横ばい。衣料品 8 ポイント、食料品 24 ポイント悪化となった。案件が出ても過当競争が厳しく、利益が見込めない状況が続いているとの声も寄せられている。
サービス業	採算 DI18.8 ポイント、仕入単価 DI1.9 ポイント、資金 DI15.5 ポイント悪化。従業員 DI 横ばい。売上 DI7.9 ポイント回復、総じて業況 DI も 17.7 ポイント回復となった。業種別では、飲食 17 ポイント悪化。整備業横ばい。クリーニング 100 ポイント、ホテル 15 ポイント、その他 20 ポイント、運送 29 ポイント回復となった。前年同月に比べマーケットは縮小し、昨年よりも宿泊需要が下がっているため、販売価格を下げているとの声も寄せられている。